

Vent

音楽教育 ヴァン vol.46

巻頭インタビュー

1 中村佑介

一枚の作品に込めるもの

2 田中達也

ユーモアあふれる“見立て”の世界

特集

新学習指導要領による 高等学校 芸術科 音楽Iの教科書
『高校生の音楽1』『MOUSA1』のご紹介

[高等学校用教科書 内容解説資料]

特別インタビュー

山田和樹

音楽は心と直結する

参考楽譜

ボディー・パーカッション『BODIPA!』『The Lick』

(作曲:石若 駿)



音楽と「仲良し」な人生

小説を書くとき、私は作品ごとに決めたBGMを流すことで、心のテンションを一定に保ちながら筆を走らせている。

執筆に疲れたら、ギターを爪弾いてリラックス。

あるいはカホンを自由に叩いて気分をリフレッシュさせる。

聴く、奏でる、創る ――。

音楽と「仲良し」な人生は、いつだって豊かな。

森沢明夫(小説家)



Contents

- 03 巻頭インタビュー 1
中村佑介 (イラストレーター)
- 08 巻頭インタビュー 2
田中達也 (ミニチュア写真家)
- 13 特集
新学習指導要領による 高等学校 芸術科 音楽Iの教科書
『高校生の音楽1』『MOUSA1』のご紹介
[高等学校用教科書 内容解説資料]
- 26 特別インタビュー
山田和樹
- 30 Kyogei Presents
音楽診断 あなたのタイプは？
[第11回] 吹奏楽編 (監修・解説：高山直也)
- 32 Information
- 34 参考楽譜
ボディー・パーカッション『BODIPA!』『The Lick』
- 38 エッセイ
新・音から広がる世界 [第6回] 藤原道山



A portrait of Yusuke Nakamura, a young man with dark, shaggy hair and bangs, wearing a black t-shirt. He is looking slightly to the right with a gentle expression and has both hands raised in front of him, palms facing forward, with fingers spread. He is wearing a gold ring on his left ring finger and a black wristband on his left wrist.

Nakamura Yusuke

巻頭インタビュー1

一枚の作品に 込めるもの

イラストレーター 中村佑介

今号の巻頭は、高等学校の新しい教科書『高校生の音楽1』『MOUSA1』の表紙のために、作品を制作してくださったお2人のインタビュー記事です。

まず最初は、イラストレーターの中村佑介さんです。中村さんは数多くの書籍カバーやCDジャケットも手掛けられており、それらを目にしたことのある方も多いと思います。『高校生の音楽』では平成25年度から中村さんの作品を表紙に使用しており、今回の作品も新しい教科書のために描き下ろされたものです。毎回、その教科書を読んでから制作に取り掛かるという中村さんに、ご自身の経験を振り返りながら、美術についてのお考えや、制作において大切にしていることなどを語っていただきました。

聞き手 ヴァン編集部

絵を仕事にするために

Vent(以下、V): 改訂される教科書の表紙にご協力いただき、ありがとうございました。中村さんは、お父様が建築家、お母様がファッションデザイナーという、幼い頃から美術と近い環境で育ってこられたのですが、どのような子ども時代を過ごされたのでしょうか？

中村: 小学生の頃は漫画家、中学生と高校生の頃はゲームのキャラクターデザイナーになりたかったんです。僕は宝塚市出身で、今は大阪に住んでいますが、関西はゲームを作っているメーカーが集まっています。大阪にはカプコン、京都には任天堂、そして神戸にはコナミと。僕はゲームが好きだったので、会社に入ってオリジナルのキャラクターを作るのが夢でした。ゲームもできてお金ももらえるなんて、どんな世界やねんって(笑)。そこで両親から、キャラクターデザイナーになるために

必要な勉強を教わり、その進路として美術大学へ行くことを決めました。

V: 美術大学に入学していかがでしたか？

中村: 高校生までは、クラスの中で自分よりも絵がうまい人と出会ったことはありませんでした。ところが美術大学に入ると、クラスメイトのほとんどが自分よりもうまいわけです。しかし、そうしたクラスメイトや大学の先生も、プロのイラストレーターではない。大学3年生になって「じゃあ誰を抜かなきゃいけないのだろう」と考えていた頃、書店で売られていた本を目にして「この表紙を描いている人を超えないと、イラストの仕事は取れないんだ」と思ったことがありました。当時、大学での成績はよかったのですが、成績はあくまでも大学の中での一面であって、社会的なポジションではありませんから。

V: 学生時代から、明確に将来の仕事のことを考えていたのですね。

中村: 早くプロデビューしたいという希望がありました。ですが、ほとんどのイラストレーターは会社やデザイン事務所などに所属して、背景を描いたりデザインをつくったりしながら、10年たった頃にキャラクターデザインを担当させてもらいます。そしてキャラクターに人気が出てきて、デザイナー自身がブランドとなってからフリーになるという流れが一般的でした。けれど、僕は早く絵を仕事にした生活をしていきたくかったし、自分の性格から就職というイメージは湧きませんでした。

V: そこからどのようにご自身の道を切り開いてこられたのでしょうか？

中村: 社会の中で絵のよしあしを判断するのは、絵を描かない一般の人々です。その人たちがよいと思う絵を描くことが仕事につながると考えました。それからは、展覧会に出品した際には一般の方に意見を聞いたり、身近で絵に関心のない年齢層の高い人に絵を見せたりしました。そこで「上手だね」という言葉が返ってきた絵は失敗です。上手なだけの絵では仕事につながりません。「いいね、かわいいね」「どこに売っているの？」という言葉がもらえたら成功です。そこを目指しながら、大学卒業後2年間ぐらいは自分で営業しながら勉強も続け、絵の仕事を増やしていきました。

大切なのは基礎・基本

V: 中村さんの絵は、一目で中村さんの作品だと分かります。今の作風に至るまでに、どのような過程があったのでしょうか？

中村: もともと、女の子をうまく描けないと思っていました。髪を長くしてスカートををはかせるなど、型どおりに描くのは簡単です。でもそうではなくて、髪は短くズボンをはいていて、しっかりした体型の人物画でも、それが女性だと認識されなけ



中村佑介『アマビエ』(2020年3月)



仕事の基本は、当たり前の感覚、
そして礼儀や技術です。
そのうえでようやく、
その人らしさというものが求められます。

れば、女性を描けるようになったとは言えません。女性特有の雰囲気やしぐさ、表情などの内面を描かないと。作家として、どうすればそれらの特徴を描けるようになるのが挑戦でした。

V:それが始まりだったんですね。背景にも引き込まれるような魅力があります。

中村:最初の頃、背景や小物、構図などは、人物を描くための小道具に過ぎませんでした。しかし、それらをよいと言ってくださる方がいらっしゃったので「そうなのかな」と思い、注意して描くようになりました。僕の場合、見ている方からの意見を聞いて、その部分を伸ばしていくようにしています。

V:作品を描くときに、大切にしているポイントは何ですか？

中村:僕の場合まず見ているものを忠実に描いて、その組み合わせ方によって人を魅せるという手法を取っています。同じものでも1mずらすとちょうどいいのに、わざと30cmにして不思議なおもしろさを出すといった方法です。それから、みんなが青だと認識しているものを少し緑がかった青にしてみると、違った世界が見えてくる。また、例えば人物の肌を真っ白く塗ることで「この人の肌はどんな色なのだろう？」と、見る側はそれぞれが考えます。そういう余地みたいなものを、絵の中に残しています。

V:ご自身の表現力や個性などを意識したのはいつ頃ですか？

中村:大学卒業後、3年ぐらいたってからでしょうか。まず身

に付けるべきなのは、クライアントが望むイメージを、イラスト一枚で具現化するという技術です。表現力や個性ではありません。それはもっと先のことです。例えば、音楽の教科書の表紙なのに、もし音楽で用いるものが1つも入っていないイラストを描いたら、教育芸術社さんには「もう来年からは頼まないよ」と思われてしまうことでしょう(笑)。仕事の基本は、当たり前の感覚、そして礼儀や技術です。そのうえでようやく、その人らしさというものが求められます。

V:基本を大切にされているんですね。

中村:基礎・基本は絶対に必要です。絵における基礎はデッサンなどですが、そこを学ぶことでさまざまな仕事に対応できます。イラストレーターは、クライアントの商品を「おもしろい本ですよ」「よい音楽ですよ」というように、それを見た人がさらに他の人に伝えたい形にしていくことが仕事です。僕自身、これからも伝播力を理解することが重要だと思っています。

V:中村さんはクライアント側の立場や意図を大切に考えていらっしゃいますが、その意識はいつ頃からですか？

中村:育った環境が影響していると思います。両親が行っていた「依頼があってもものを作る」という仕事現場しか僕は見ていません。「すばらしいものを作ればプロになれる」という絵空事みたいな言葉は、昔から信用していませんでした。

V:現実的に考えていらしたんですね。



中村さんは制作活動だけでなく、美術を学ぶ若手への講演会も多く行っている

○ 中村佑介(なかむら・ゆうすけ)

1978年生まれ。兵庫県宝塚市出身。大阪芸術大学デザイン学科卒業。ASIAN KUNG-FU GENERATION、さだまさしのCDジャケットをはじめ、『謎解きはディナーのあとで』、『夜は短し歩けよ乙女』、音楽の教科書など数多くの書籍カバーを手掛けるイラストレーター。ほかにもアニメ『四畳半神話大系』や『果汁グミ』TVCMのキャラクターデザイン、セイルズとしてのバンド活動、テレビやラジオ出演、エッセイ執筆など表現は多岐にわたる。初作品集『Blue』は、画集では異例の9.5万部を記録中。

中村: 一方で小学生の頃「いつも捨てている牛乳瓶のキャップを、みんなが欲しくするようにするにはどうすればよいのだろう?」と考えて、当時はやっていた人気のキャラクターを描いたことがありました。すると、みんなが欲しがったので、今度はさらに色をきれいに塗ったり、キャップに穴を開けないでと伝えたり……。すると隣のクラスからも欲しがらる子がやってきて、それがうれしかったのを覚えています。学校の卒業文集に表紙やみんなの似顔絵を描いてほしいと先生から頼まれたこともありました。誰かから何かを頼まれて、それをよりよい形にしていくことが僕の喜びでした。

全ての教科が役に立つ

V: 今回も教科書の表紙を手掛けていただきましたが、どのように取り組んでくださったのでしょうか。制作前にはまた内容も読み込んでくださったそうですね。

中村: 僕は仕事を依頼してくださった会社の、失敗できない立場にいる社長の気持ちになることから始めます。「次の教科書ですべったら、自分のせいで教育芸術社さんがつぶれるぞ」みたいに(笑)。「先生が気に入る表紙」「生徒が気に入る表紙」「教育芸術社さんが胸を張れる表紙」。それぞれ3つの案件を満たす三角形の中心点を見つけるために、最近の高校生や先生方の意見を聞いたり、ツイッターなどのSNSで情報を集めたりして勉強しました。

V: 頭の下がる思いです。今回の新しい教科書の中で、中村さんが気になった音楽はありますか?

中村: おもしろいと思ったのは、水を太鼓のように演奏する「リクインディ」です。今回は教科書のQRコードからその音

楽まで聴けて、かなりマニアック度が上がっていますね。僕はジャズ、ソウル、R&Bなどリズム感のある音楽が好きなんです。音符があろうとなかろうと、リズムに乗って気分が高揚するのは音楽のもつ力だと思います。

V: 教科書を手に取った生徒には、どのようなことを感じてほしいですか?

中村: 1年間の授業が終わって、生徒が教科書の表紙を見返したときに、「この表紙ってこういう意味だったんだ」「教科書って私たちのことを考えてくれているんだな」と、少しでも何かに気付いてもらえたらうれしいですね。そして「なんだか音楽の教科書って捨てられないな」と感じてもらえたときに、僕は役割を果たせたと言えます。

V: ありがとうございます。最後に、若い人に伝えたいことはありますか?

中村: 学校で勉強した教科の全てが、将来の役に立つということです。大人になってからどのような職業に就いたとしても、フリーであっても会社に所属していても、それまでに身に付けたさまざまな知識は本人の可能性を広げます。例えば僕のイラストの仕事は、その商品の物語を1枚にまとめることです。これは、国語の授業が役に立ちました。「この文章を要約しなさい」という課題で考えたことが、現在に生かされています。広い知識は多くの人々に関わる時に非常に役立ちます。そして実は学校で学べることは、あまりインターネットには載っていない。音楽の教科書の表紙を描くにあたって、教科書に掲載されていた外国の音楽について調べてみても、その国の言語でないと情報が出てこない。どの教科でも、簡単には知ることができない専門的な内容を、学校と教科書で学べます。若い方々には、ぜひ何でも楽しんで学んでほしいと思います。



平成25年度『高校生の音楽 1』



平成26年度『高校生の音楽 2』



平成29年度『高校生の音楽 1』



平成30年度『高校生の音楽 2』

Tatsuya Tanaka



巻頭インタビュー2

ユーモアあふれる “見立て”の世界

ミニチュア写真家 田中達也

次にご紹介するのは、新しい『MOUSA1』の表紙にご協力いただいた田中達也さんです。ミニチュア写真家として、見る人があっと驚くような作品を毎日発表され、SNSでも話題を呼んでいます。『MOUSA1』の表紙では、楽器を主役にした“見立て”の作品を制作してくださいました。田中さんの立体へのこだわり、そして独特のフレーム感——魅力たっぷりの“見立て”の世界をご紹介します。

聞き手 ヴァン編集部

幼い頃に育まれた“見立て”の感覚

Vent(以下、V): 田中さんは子どもの頃から絵や工作が得意だったのですか？

田中: 学校では図画工作がいちばん好きな科目でした。家でもよく漫画を描いたり、身近な材料でいろいろな作品をつくったりしていたことを覚えています。小さい頃からずっとプラモデルが趣味で、それが今につながっています。

V: 模型屋さんはわくわくする場所ですね、子どもならなおさら。

田中: そうですね。プラモデル屋は大好きでよく通っていまし

た。デパートに行ったときなんかは、鉄道模型などのジオラマを見て欲しくてたまらないのですが、高価なので簡単には買ってもらえない。そこで、そのジオラマをまねて、本を重ねてビルにしたりティッシュ箱などの日用品で街をつくったりしました。自分なりの“見立て”でつくった街にミニカーを置いて遊んでいたことを思い出します。

V: 田中さんの「物を見る力」というのは、そうした遊びからも培われてきたんですね。

田中: プラモデルには“見立て”の要素がたくさんあります。例えば、配管をつくりたいと思ったら、ストローを切ってシルバーに塗りダクトにしたりだとか、さまざまな日用品を使って

パーツにしていました。それが“見立て”の特訓になったのでしょね。“見立て”というのは、身近にあるもので置き換えて、ないものを補うことに通じるのだと思います。

V:中学生や高校生という多感な時期にも、ずっと好きなことを続けていましたか？

田中:その頃は、プラモデルや絵を描くといった趣味を周りの人と共有する機会は少なかったです。ほんとうに仲のよい友達にだけ見せるぐらい。その年頃で人気なのはスポーツや音楽じゃないですか。だから僕も運動部に入っていました。高校生のときは山岳部に入り、けっこのめり込みました。でも山を登っているときにも必ずスケッチをしたりと、常に絵を描くことが自分のベースにありましたね。大学を決めるときになって、やっぱり絵を学ぼうと真剣に考え始めました。

V:「表現者でありたい」といったアーティストの芽生えは大学時代に出てきたのでしょうか？

田中:大学生の頃はとにかく緻密なイラストを描いていました。それを仕上げる根気とこだわりは現在の仕事と近いものがあります。卒業制作で描いたイラストは、機械を組み合わせ動物を形づくるというものでした。卒業後は広告デザイナーとして働きましたが、広告のキャッチコピーにダジャレの要素を入れたり、イラストには“見立て”を取り入れたりしていました。今に至るまで、子どもの頃の感覚が残っていたのかもしれない。

SNSの発信力

V:InstagramやTwitterなどのSNSで毎日作品を発信されています。

田中:広告デザイナーをしていた頃、カメラマンに「こういう写真を撮ってきてほしい」と指示しているうちに、自分自身も写真への興味が出てきたんです。思い描いた絵にするための構図を考えながら、自分でも試しに写真を撮ってみたりして。その影響でInstagramを始めました。デザインの方法にもいろ



制作風景2。緻密で繊細な作業が続く



制作風景1。ミニチュアは指先ほどの大きさ

いろあるわけで、自分の表現したいアイデアを最速で形にできるのが写真だと気付いたんです。

V:フォロワー数の多さにも驚きました。反響が大きい中、日々どんな気持ちで発信されているのか聞かせてください。

田中:リアクションがあるから続けられるんですよね。毎日一作品ずつアップするのは大変ですが、楽しみにしてくれている人がいるのでサボれません。見てくれた人からダイレクトにメッセージも届きますから、よい作品をたくさんつくりたいという励みにもなります。これはほんとうにSNSありきかなと思います。僕の“見立て”という作風も、どうやったら「いいね！」が増えるのかを分析していくうちに出来上がったんです。皆の意見が上がり上げたという感覚ですね。

V:毎日続けられることがすごいと思います。創作への意欲とアイデアを常にストックされているとお聞きしたのですが、日常のどういう場面で感度を高くしたり、インプットをしたりしているのですか？

田中:アイデアを考えるときは買い物に行くことが多いです。お店に行くときたくさんの物が陳列されていますよね。よい案が思い浮かぶときというのは、そのアイデアに関係する何かが間接的にでも引っ掛かってくるタイミングなんです。アイデアが降りてくるためのスイッチが必要なので、いろいろな物を見て回るようにしています。

V:見るときには何か意識していますか？

田中:無意識でもいいので、とにかく目に入れるということがアイデアのヒントになります。お店に物がずらっと並んでいるように、僕のアトリエもなるべく物がたくさん見えるようにしています。壁一面に並べることで、それらを眺めながら「またこういう作品をつくれそうだな」というふうにアイデアが湧いてくるんです。よく子どもが漢字や九九を覚えるためにトイレなどに表を貼ったりするじゃないですか。何となく見ている、毎日目にするうちに頭に入っている。自分がインプットしたいものを日常的に見ることが大事だと思います。

(P.12へ続く)



《ショパンと食パン》



《“とって”も上手な演奏》



《演奏にはコードが大切》



《美しい音色》



《音の宝石箱や〜》

QRコードを読み取ると
制作の様子を動画でご覧いただけます。



《ハイスコア》



表紙を見ってくれる生徒たちにも、
楽器の形に対する興味や愛着を
もってもらえたらいいなと
思っています。

○ 田中達也(たなか・たつや)

ミニチュア写真家・見立て作家。1981年熊本生まれ。2011年、ミニチュアの視点で日常にある物を別の物に見立てたアート「MINIATURE CALENDAR」を開始。以後毎日作品をインターネット上で発表し続けている。国内外で開催中の展覧会、「MINIATURE LIFE展 田中達也 見立ての世界」の来場者数が累計130万人を突破。主な仕事に、2017年NHKの連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバック、日本橋高島屋SCオープニングムービーなど。Instagramのフォロワーは270万人を超える(2021年1月現在)。著書に「MINIATURE LIFE」、「MINIATURE LIFE2」、「Small Wonders」、「MINIATURE TRIP IN JAPAN」など。

表紙に込められた思い

V: 今回の教科書の表紙について、生徒たちに「こんなところを見てほしい」「こんなふうに感じてほしい」といった願いはありますか？

田中: 僕自身、クラリネットやリコーダーを組み立てて作品の中に置きながら、あらためて「こういう形なんだなあ」と意識することができました。表紙を見ってくれる生徒たちにも、楽器の形に対する興味や愛着をもってもらえたらいいなと思っています。クラリネットとリコーダーを列車に見立て、作品には《音楽に乗り乗り》というタイトルを付けました。ダジャレと言えばダジャレなんですけれど、「言葉の見立て」になっていることを意識して作品を見てもらえると、より楽しめるのではないかと思います。

V: 作品からは「立体の奥行きを感じる心」が伝わってきます。構図やフレームワークは最初からすんなり決まりましたか？

田中: 楽器を並べたとき、リコーダーの大きさがクラリネットに比べてかなり小さかったんです。手元にあったのはソプラノリコーダーだったので。これではリコーダーは使えないなあと思

っていていろいろ調べてみたところ、アルトリコーダーを発見したんです。取り寄せてみるとサイズがぴったり！ ミニチュアはイラストと違って、サイズを簡単に変えられません。だから毎回、作品に使う小物を準備するときにサイズ感を合わせるのがいちばん苦労するところですね。

V: 駅舎や周りの建物なども含めて、田中さんのアート力が反

映されています。

田中: 今回の表紙作品には、学校の勉強と関連しないもの、音楽の授業と全く関係のないものは置かないことを意識しました。本や鉛筆など学校で使うもので構成しています。線路は本物の模型です。Nゲージ(9ミリゲージ)の線路がクラリネットやアルトリコーダーにぴったり合いました。主役をどう引き立たせるのか考えて、違和感を出さないようにいろいろな素材や小物を使い分けます。表紙を見た生徒たちがわくわくしてくれたらうれしいですね。

V: すっかり田中さんの“見立て”の世界に引き込まれました。最後に、高校生を含めた若者たちへメッセージをお願いします。

田中: 好きなことがあったら、とにかく真剣に取り組んでみるとよいのではないかと思います。僕は大学時代にずっと三味線を弾いていました。長唄と地歌です。和楽器のサークルに入り、プロを目指すぐらい練習して単位が危なくなったほど……！ 今はほとんど弾かなくなりましたが、三味線の曲はよく聴きます。昔の自分の演奏を聴き返すことも。

V: 三味線というのは意外でした。特別なジャンルだという感じもなく、自然に心ひかれていったのでしょうか？

田中: 全く抵抗はありませんでした。基本的に他の人がやってなさそうなことに興味をもつ性格だったからかもしれません。楽器を練習することってこんなに楽しいのか！ と新たな世界が開け、のめり込みました。周りに認められるかどうか、ということは置いておいて、何かを本気でやってみる経験も人生の糧になるのではないのでしょうか。例えば、「プロゲーマーになりたい」「プラモデラーになりたい」でもよいと思います。高校や大学というのは、そうしたことを試せるいちばんよい時期だと思うので、あまり周囲の目を気にせず好きなことに挑戦してほしいですね。



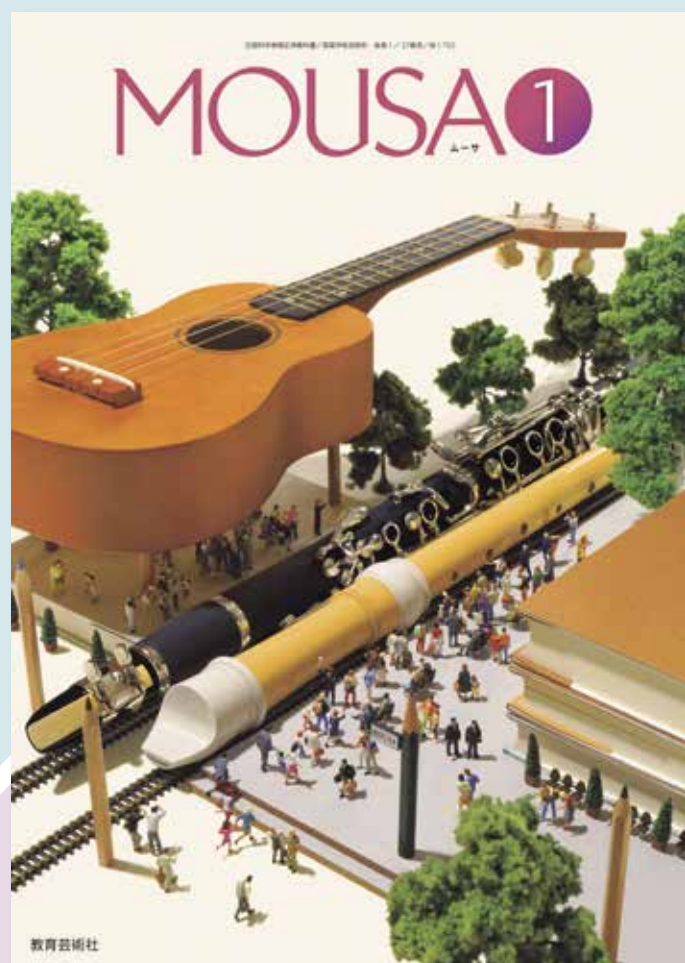
《音楽に乗り乗り》

特集

新学習指導要領による
高等学校 芸術科 音楽Iの教科書

『高校生の音楽1』 『MOUSA1』の ご紹介

[高等学校用教科書 内容解説資料]



令和4年度『MOUSA1』



令和4年度『高校生の音楽1』

令和4年度から高等学校用教科書
『高校生の音楽1』『MOUSA1』が改訂されます。
教育芸術社では、音楽科の果たす役割を考えながら、
今日的な教育の課題にも対応した、
新しい時代にふさわしい教科書を目指して
編集してまいりました。
新しい2つの教科書のポイントについて、
それぞれ6つの視点からご紹介します。

- 学習に役立つコンテンツ
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 「思考力・判断力・表現力等」の育成
- 「知識・技能」の習得
- 「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- 「生活や社会の中の音や音楽、
音楽文化と幅広く関わる資質・能力」の育成

本号のヴァンは、令和4年度から使用される教科書『高校生の音楽1』『MOUSA1』と
同じ紙で製作しました。ぜひ実際の手触りや質感、色などをお確かめください。
表紙(P.1～4、P.37～40):「口絵」の部分で使われる紙
表紙以外(P.5～36):「本文」で使われる紙

『高校生の音楽』改訂のコンセプト

▶自分の感性を軸にして学びます。

これまでの経験や学習で培われた
自分自身の感性を学びの軸とします。

▶体験活動を通して実感を伴った学びを促します。

自分の体を実際に使って、
感じ取ったことを学びにつなげます。

▶知識・教養をもとに音楽を捉え直します。

幅広い知識と教養に触れ、
自分なりの考えをもつことを目指します。

▶他者との対話を通して学びを深めます。

考えたことや感じたことを他者と共有し、
さらに学びを深めます。

表現とは、 頭と体を使った他者との対話

人間は、どうしたって他者と生きていかなければならない。
一人一人が、それぞれの環境のなかで色々なものを抱え、
時には折り合いがつかず苦しむこともあるかもしれない。

僕が表現活動をするうえで一番重要だと思っているのは、
そのような社会のなかで、自分自身が何に興味をもっているのか、
何を美しいと思っているのか、という個人的な感性を大事にすること。

自分の感性を軸に、自分の頭で物事を捉え直し、自分の体を動かして
他者と対話をしながら、作品をつくりあげていく。

万人受けだけを求めるのではなく、
今誰かが抱えている個人的な問題意識に大きく響くような、
そんな表現活動をしていきたい。

森山

1984年、ジャズダンスのジャンルに舞台デビュー。交流度として1年陸軍在任。ロム・ボラにヨーロッパパフォーミングアーツを学ばない。



🎵 学習に役立つコンテンツ

学習をサポートするQRコード

▶ QRコンテンツを充実させました。

原語歌詞の朗読、体験活動のお手本、
コードの弾き方はもちろん、
他にも、学習に役立つ
QRコンテンツが満載です。

体験活動のお手本

伝統音楽などの体験活動のお手本を視聴することができます。



目次 Contents

本書について

- 本書の構成 2
- 本書の目的 3
- 本書の特色 4
- 本書の使い方 5
- 本書の更新履歴 6
- 本書の著作権 7
- 本書の印刷 8
- 本書の発行 9
- 本書の編集 10
- 本書の校閲 11
- 本書の校正 12
- 本書の印刷 13
- 本書の発行 14
- 本書の編集 15
- 本書の校閲 16
- 本書の校正 17
- 本書の印刷 18
- 本書の発行 19
- 本書の編集 20
- 本書の校閲 21
- 本書の校正 22
- 本書の印刷 23
- 本書の発行 24
- 本書の編集 25
- 本書の校閲 26
- 本書の校正 27
- 本書の印刷 28
- 本書の発行 29
- 本書の編集 30
- 本書の校閲 31
- 本書の校正 32
- 本書の印刷 33
- 本書の発行 34
- 本書の編集 35
- 本書の校閲 36
- 本書の校正 37
- 本書の印刷 38
- 本書の発行 39
- 本書の編集 40
- 本書の校閲 41
- 本書の校正 42
- 本書の印刷 43
- 本書の発行 44
- 本書の編集 45
- 本書の校閲 46
- 本書の校正 47
- 本書の印刷 48
- 本書の発行 49
- 本書の編集 50
- 本書の校閲 51
- 本書の校正 52
- 本書の印刷 53
- 本書の発行 54
- 本書の編集 55
- 本書の校閲 56
- 本書の校正 57
- 本書の印刷 58
- 本書の発行 59
- 本書の編集 60
- 本書の校閲 61
- 本書の校正 62
- 本書の印刷 63
- 本書の発行 64
- 本書の編集 65
- 本書の校閲 66
- 本書の校正 67
- 本書の印刷 68
- 本書の発行 69
- 本書の編集 70
- 本書の校閲 71
- 本書の校正 72
- 本書の印刷 73
- 本書の発行 74
- 本書の編集 75
- 本書の校閲 76
- 本書の校正 77
- 本書の印刷 78
- 本書の発行 79
- 本書の編集 80
- 本書の校閲 81
- 本書の校正 82
- 本書の印刷 83
- 本書の発行 84
- 本書の編集 85
- 本書の校閲 86
- 本書の校正 87
- 本書の印刷 88
- 本書の発行 89
- 本書の編集 90
- 本書の校閲 91
- 本書の校正 92
- 本書の印刷 93
- 本書の発行 94
- 本書の編集 95
- 本書の校閲 96
- 本書の校正 97
- 本書の印刷 98
- 本書の発行 99
- 本書の編集 100
- 本書の校閲 101
- 本書の校正 102
- 本書の印刷 103
- 本書の発行 104
- 本書の編集 105
- 本書の校閲 106
- 本書の校正 107
- 本書の印刷 108
- 本書の発行 109
- 本書の編集 110
- 本書の校閲 111
- 本書の校正 112
- 本書の印刷 113
- 本書の発行 114
- 本書の編集 115
- 本書の校閲 116
- 本書の校正 117
- 本書の印刷 118
- 本書の発行 119
- 本書の編集 120
- 本書の校閲 121
- 本書の校正 122
- 本書の印刷 123
- 本書の発行 124
- 本書の編集 125
- 本書の校閲 126
- 本書の校正 127
- 本書の印刷 128
- 本書の発行 129
- 本書の編集 130
- 本書の校閲 131
- 本書の校正 132
- 本書の印刷 133
- 本書の発行 134
- 本書の編集 135
- 本書の校閲 136
- 本書の校正 137
- 本書の印刷 138
- 本書の発行 139
- 本書の編集 140
- 本書の校閲 141
- 本書の校正 142
- 本書の印刷 143
- 本書の発行 144
- 本書の編集 145
- 本書の校閲 146
- 本書の校正 147
- 本書の印刷 148
- 本書の発行 149
- 本書の編集 150
- 本書の校閲 151
- 本書の校正 152
- 本書の印刷 153
- 本書の発行 154
- 本書の編集 155
- 本書の校閲 156
- 本書の校正 157
- 本書の印刷 158
- 本書の発行 159
- 本書の編集 160
- 本書の校閲 161
- 本書の校正 162
- 本書の印刷 163
- 本書の発行 164
- 本書の編集 165
- 本書の校閲 166
- 本書の校正 167
- 本書の印刷 168
- 本書の発行 169
- 本書の編集 170
- 本書の校閲 171
- 本書の校正 172
- 本書の印刷 173
- 本書の発行 174
- 本書の編集 175
- 本書の校閲 176
- 本書の校正 177
- 本書の印刷 178
- 本書の発行 179
- 本書の編集 180
- 本書の校閲 181
- 本書の校正 182
- 本書の印刷 183
- 本書の発行 184
- 本書の編集 185
- 本書の校閲 186
- 本書の校正 187
- 本書の印刷 188
- 本書の発行 189
- 本書の編集 190
- 本書の校閲 191
- 本書の校正 192
- 本書の印刷 193
- 本書の発行 194
- 本書の編集 195
- 本書の校閲 196
- 本書の校正 197
- 本書の印刷 198
- 本書の発行 199
- 本書の編集 200
- 本書の校閲 201
- 本書の校正 202
- 本書の印刷 203
- 本書の発行 204
- 本書の編集 205
- 本書の校閲 206
- 本書の校正 207
- 本書の印刷 208
- 本書の発行 209
- 本書の編集 210
- 本書の校閲 211
- 本書の校正 212
- 本書の印刷 213
- 本書の発行 214
- 本書の編集 215
- 本書の校閲 216
- 本書の校正 217
- 本書の印刷 218
- 本書の発行 219
- 本書の編集 220
- 本書の校閲 221
- 本書の校正 222
- 本書の印刷 223
- 本書の発行 224
- 本書の編集 225
- 本書の校閲 226
- 本書の校正 227
- 本書の印刷 228
- 本書の発行 229
- 本書の編集 230
- 本書の校閲 231
- 本書の校正 232
- 本書の印刷 233
- 本書の発行 234
- 本書の編集 235
- 本書の校閲 236
- 本書の校正 237
- 本書の印刷 238
- 本書の発行 239
- 本書の編集 240
- 本書の校閲 241
- 本書の校正 242
- 本書の印刷 243
- 本書の発行 244
- 本書の編集 245
- 本書の校閲 246
- 本書の校正 247
- 本書の印刷 248
- 本書の発行 249
- 本書の編集 250
- 本書の校閲 251
- 本書の校正 252
- 本書の印刷 253
- 本書の発行 254
- 本書の編集 255
- 本書の校閲 256
- 本書の校正 257
- 本書の印刷 258
- 本書の発行 259
- 本書の編集 260
- 本書の校閲 261
- 本書の校正 262
- 本書の印刷 263
- 本書の発行 264
- 本書の編集 265
- 本書の校閲 266
- 本書の校正 267
- 本書の印刷 268
- 本書の発行 269
- 本書の編集 270
- 本書の校閲 271
- 本書の校正 272
- 本書の印刷 273
- 本書の発行 274
- 本書の編集 275
- 本書の校閲 276
- 本書の校正 277
- 本書の印刷 278
- 本書の発行 279
- 本書の編集 280
- 本書の校閲 281
- 本書の校正 282
- 本書の印刷 283
- 本書の発行 284
- 本書の編集 285
- 本書の校閲 286
- 本書の校正 287
- 本書の印刷 288
- 本書の発行 289
- 本書の編集 290
- 本書の校閲 291
- 本書の校正 292
- 本書の印刷 293
- 本書の発行 294
- 本書の編集 295
- 本書の校閲 296
- 本書の校正 297
- 本書の印刷 298
- 本書の発行 299
- 本書の編集 300
- 本書の校閲 301
- 本書の校正 302
- 本書の印刷 303
- 本書の発行 304
- 本書の編集 305
- 本書の校閲 306
- 本書の校正 307
- 本書の印刷 308
- 本書の発行 309
- 本書の編集 310
- 本書の校閲 311
- 本書の校正 312
- 本書の印刷 313
- 本書の発行 314
- 本書の編集 315
- 本書の校閲 316
- 本書の校正 317
- 本書の印刷 318
- 本書の発行 319
- 本書の編集 320
- 本書の校閲 321
- 本書の校正 322
- 本書の印刷 323
- 本書の発行 324
- 本書の編集 325
- 本書の校閲 326
- 本書の校正 327
- 本書の印刷 328
- 本書の発行 329
- 本書の編集 330
- 本書の校閲 331
- 本書の校正 332
- 本書の印刷 333
- 本書の発行 334
- 本書の編集 335
- 本書の校閲 336
- 本書の校正 337
- 本書の印刷 338
- 本書の発行 339
- 本書の編集 340
- 本書の校閲 341
- 本書の校正 342
- 本書の印刷 343
- 本書の発行 344
- 本書の編集 345
- 本書の校閲 346
- 本書の校正 347
- 本書の印刷 348
- 本書の発行 349
- 本書の編集 350
- 本書の校閲 351
- 本書の校正 352
- 本書の印刷 353
- 本書の発行 354
- 本書の編集 355
- 本書の校閲 356
- 本書の校正 357
- 本書の印刷 358
- 本書の発行 359
- 本書の編集 360
- 本書の校閲 361
- 本書の校正 362
- 本書の印刷 363
- 本書の発行 364
- 本書の編集 365
- 本書の校閲 366
- 本書の校正 367
- 本書の印刷 368
- 本書の発行 369
- 本書の編集 370
- 本書の校閲 371
- 本書の校正 372
- 本書の印刷 373
- 本書の発行 374
- 本書の編集 375
- 本書の校閲 376
- 本書の校正 377
- 本書の印刷 378
- 本書の発行 379
- 本書の編集 380
- 本書の校閲 381
- 本書の校正 382
- 本書の印刷 383
- 本書の発行 384
- 本書の編集 385
- 本書の校閲 386
- 本書の校正 387
- 本書の印刷 388
- 本書の発行 389
- 本書の編集 390
- 本書の校閲 391
- 本書の校正 392
- 本書の印刷 393
- 本書の発行 394
- 本書の編集 395
- 本書の校閲 396
- 本書の校正 397
- 本書の印刷 398
- 本書の発行 399
- 本書の編集 400
- 本書の校閲 401
- 本書の校正 402
- 本書の印刷 403
- 本書の発行 404
- 本書の編集 405
- 本書の校閲 406
- 本書の校正 407
- 本書の印刷 408
- 本書の発行 409
- 本書の編集 410
- 本書の校閲 411
- 本書の校正 412
- 本書の印刷 413
- 本書の発行 414
- 本書の編集 415
- 本書の校閲 416
- 本書の校正 417
- 本書の印刷 418
- 本書の発行 419
- 本書の編集 420
- 本書の校閲 421
- 本書の校正 422
- 本書の印刷 423
- 本書の発行 424
- 本書の編集 425
- 本書の校閲 426
- 本書の校正 427
- 本書の印刷 428
- 本書の発行 429
- 本書の編集 430
- 本書の校閲 431
- 本書の校正 432
- 本書の印刷 433
- 本書の発行 434
- 本書の編集 435
- 本書の校閲 436
- 本書の校正 437
- 本書の印刷 438
- 本書の発行 439
- 本書の編集 440
- 本書の校閲 441
- 本書の校正 442
- 本書の印刷 443
- 本書の発行 444
- 本書の編集 445
- 本書の校閲 446
- 本書の校正 447
- 本書の印刷 448
- 本書の発行 449
- 本書の編集 450
- 本書の校閲 451
- 本書の校正 452
- 本書の印刷 453
- 本書の発行 454
- 本書の編集 455
- 本書の校閲 456
- 本書の校正 457
- 本書の印刷 458
- 本書の発行 459
- 本書の編集 460
- 本書の校閲 461
- 本書の校正 462
- 本書の印刷 463
- 本書の発行 464
- 本書の編集 465
- 本書の校閲 466
- 本書の校正 467
- 本書の印刷 468
- 本書の発行 469
- 本書の編集 470
- 本書の校閲 471
- 本書の校正 472
- 本書の印刷 473
- 本書の発行 474
- 本書の編集 475
- 本書の校閲 476
- 本書の校正 477
- 本書の印刷 478
- 本書の発行 479
- 本書の編集 480
- 本書の校閲 481
- 本書の校正 482
- 本書の印刷 483
- 本書の発行 484
- 本書の編集 485
- 本書の校閲 486
- 本書の校正 487
- 本書の印刷 488
- 本書の発行 489
- 本書の編集 490
- 本書の校閲 491
- 本書の校正 492
- 本書の印刷 493
- 本書の発行 494
- 本書の編集 495
- 本書の校閲 496
- 本書の校正 497
- 本書の印刷 498
- 本書の発行 499
- 本書の編集 500
- 本書の校閲 501
- 本書の校正 502
- 本書の印刷 503
- 本書の発行 504
- 本書の編集 505
- 本書の校閲 506
- 本書の校正 507
- 本書の印刷 508
- 本書の発行 509
- 本書の編集 510
- 本書の校閲 511
- 本書の校正 512
- 本書の印刷 513
- 本書の発行 514
- 本書の編集 515
- 本書の校閲 516
- 本書の校正 517
- 本書の印刷 518
- 本書の発行 519
- 本書の編集 520
- 本書の校閲 521
- 本書の校正 522
- 本書の印刷 523
- 本書の発行 524
- 本書の編集 525
- 本書の校閲 526
- 本書の校正 527
- 本書の印刷 528
- 本書の発行 529
- 本書の編集 530
- 本書の校閲 531
- 本書の校正 532
- 本書の印刷 533
- 本書の発行 534
- 本書の編集 535
- 本書の校閲 536
- 本書の校正 537
- 本書の印刷 538
- 本書の発行 539
- 本書の編集 540
- 本書の校閲 541
- 本書の校正 542
- 本書の印刷 543
- 本書の発行 544
- 本書の編集 545
- 本書の校閲 546
- 本書の校正 547
- 本書の印刷 548
- 本書の発行 549
- 本書の編集 550
- 本書の校閲 551
- 本書の校正 552
- 本書の印刷 553
- 本書の発行 554
- 本書の編集 555
- 本書の校閲 556
- 本書の校正 557
- 本書の印刷 558
- 本書の発行 559
- 本書の編集 560
- 本書の校閲 561
- 本書の校正 562
- 本書の印刷 563
- 本書の発行 564
- 本書の編集 565
- 本書の校閲 566
- 本書の校正 567
- 本書の印刷 568
- 本書の発行 569
- 本書の編集 570
- 本書の校閲 571
- 本書の校正 572
- 本書の印刷 573
- 本書の発行 574
- 本書の編集 575
- 本書の校閲 576
- 本書の校正 577
- 本書の印刷 578
- 本書の発行 579
- 本書の編集 580
- 本書の校閲 581
- 本書の校正 582
- 本書の印刷 583
- 本書の発行 584
- 本書の編集 585
- 本書の校閲 586
- 本書の校正 587
- 本書の印刷 588
- 本書の発行 589
- 本書の編集 590
- 本書の校閲 591
- 本書の校正 592
- 本書の印刷 593
- 本書の発行 594
- 本書の編集 595
- 本書の校閲 596
- 本書の校正 597
- 本書の印刷 598
- 本書の発行 599
- 本書の編集 600
- 本書の校閲 601
- 本書の校正 602
- 本書の印刷 603
- 本書の発行 604
- 本書の編集 605
- 本書の校閲 606
- 本書の校正 607
- 本書の印刷 608
- 本書の発行 609
- 本書の編集 610
- 本書の校閲 611
- 本書の校正 612
- 本書の印刷 613
- 本書の発行 614
- 本書の編集 615
- 本書の校閲 616
- 本書の校正 617
- 本書の印刷 618
- 本書の発行 619
- 本書の編集 620
- 本書の校閲 621
- 本書の校正 622
- 本書の印刷 623
- 本書の発行 624
- 本書の編集 625
- 本書の校閲 626
- 本書の校正 627
- 本書の印刷 628
- 本書の発行 629
- 本書の編集 630
- 本書の校閲 631
- 本書の校正 632
- 本書の印刷 633
- 本書の発行 634
- 本書の編集 635
- 本書の校閲 636
- 本書の校正 637
- 本書の印刷 638
- 本書の発行 639
- 本書の編集 640
- 本書の校閲 641
- 本書の校正 642
- 本書の印刷 643
- 本書の発行 644
- 本書の編集 645
- 本書の校閲 646
- 本書の校正 647
- 本書の印刷 648
- 本書の発行 649
- 本書の編集 650
- 本書の校閲 651
- 本書の校正 652
- 本書の印刷 653
- 本書の発行 654
- 本書の編集 655
- 本書の校閲 656
- 本書の校正 657
- 本書の印刷 658
- 本書の発行 659
- 本書の編集 660
- 本書の校閲 661
- 本書の校正 662
- 本書の印刷 663
- 本書の発行 664
- 本書の編集 665
- 本書の校閲 666
- 本書の校正 667
- 本書の印刷 668
- 本書の発行 669
- 本書の編集 670
- 本書の校閲 671
- 本書の校正 672
- 本書の印刷 673
- 本書の発行 674
- 本書の編集 675
- 本書の校閲 676
- 本書の校正 677
- 本書の印刷 678
- 本書の発行 679
- 本書の編集 680
- 本書の校閲 681
- 本書の校正 682
- 本書の印刷 683
- 本書の発行 684
- 本書の編集 685
- 本書の校閲 686
- 本書の校正 687
- 本書の印刷 688
- 本書の発行 689
- 本書の編集 690
- 本書の校閲 691
- 本書の校正 692
- 本書の印刷 693
- 本書の発行 694
- 本書の編集 695
- 本書の校閲 696
- 本書の校正 697
- 本書の印刷 698
- 本書の発行 699
- 本書の編集 700
- 本書の校閲 701
- 本書の校正 702
- 本書の印刷 703
- 本書の発行 704
- 本書の編集 705
- 本書の校閲 706
- 本書の校正 707
- 本書の印刷 708
- 本書の発行 709
- 本書の編集 710
- 本書の校閲 711
- 本書の校正 712
- 本書の印刷 713
- 本書の発行 714
- 本書の編集 715
- 本書の校閲 716
- 本書の校正 717
- 本書の印刷 718
- 本書の発行 719
- 本書の編集 720
- 本書の校閲 721
- 本書の校正 722
- 本書の印刷 723
- 本書の発行 724
- 本書の編集 725
- 本書の校閲 726
- 本書の校正 727
- 本書の印刷 728
- 本書の発行 729
- 本書の編集 730
- 本書の校閲 731
- 本書の校正 732
- 本書の印刷 733
- 本書の発行 734
- 本書の編集 735
- 本書の校閲 736
- 本書の校正 737
- 本書の印刷 738
- 本書の発行 739
- 本書の編集 740
- 本書の校閲 741
- 本書の校正 742
- 本書の印刷 743
- 本書の発行 744
- 本書の編集 745
- 本書の校閲 746
- 本書の校正 747
- 本書の印刷 748
- 本書の発行 749
- 本書の編集 750
- 本書の校閲 751
- 本書の校正 752
- 本書の印刷 753
- 本書の発行 754
- 本書の編集 755
- 本書の校閲 756
- 本書の校正 757
- 本書の印刷 758
- 本書の発行 759
- 本書の編集 760
- 本書の校閲 761
- 本書の校正 762
- 本書の印刷 763
- 本書の発行 764
- 本書の編集 765
- 本書の校閲 766
- 本書の校正 767
- 本書の印刷 768
- 本書の発行 769
- 本書の編集 770
- 本書の校閲 771
- 本書の校正 772
- 本書の印刷 773
- 本書の発行 774
- 本書の編集 775
- 本書の校閲 776
- 本書の校正 777
- 本書の印刷 778
- 本書の発行 779
- 本書の編集 780
- 本書の校閲 781
- 本書の校正 782
- 本書の印刷 783
- 本書の発行 784
- 本書の編集 785
- 本書の校閲 786
- 本書の校正 787
- 本書の印刷 788
- 本書の発行 789
- 本書の編集 790
- 本書の校閲 791
- 本書の校正 792
- 本書の印刷 793
- 本書の発行 794
- 本書の編集 795
- 本書の校閲 796
- 本書の校正 797
- 本書の印刷 798
- 本書の発行 799
- 本書の編集 800
- 本書の校閲 801
- 本書の校正 802
- 本書の印刷 803
- 本書の発行 804
- 本書の編集 805
- 本書の校閲 806
- 本書の校正 807
- 本書の印刷 808
- 本書の発行 809
- 本書の編集 810
- 本書の校閲 811
- 本書の校正 812
- 本書の印刷 813
- 本書の発行 814
- 本書の編集 815
- 本書の校閲 816
- 本書の校正 817
- 本書の印刷 818
- 本書の発行 819
- 本書の編集 820
- 本書の校閲 821
- 本書の校正 822
- 本書の印刷 823
- 本書の発行 824
- 本書の編集 825
- 本書の校閲 826
- 本書の校正 827
- 本書の印刷 828
- 本書の発行 829
- 本書の編集 830
- 本書の校閲 831
- 本書の校正 832
- 本書の印刷 833
- 本書の発行 834
- 本書の編集 835
- 本書の校閲 836
- 本書の校正 837
- 本書の印刷 838
- 本書の発行 839
- 本書の編集 840
- 本書の校閲 841
- 本書の校正 842
- 本書の印刷 843
- 本書の発行 844
- 本書の編集 845
- 本書の校閲 846
- 本書の校正 847
- 本書の印刷 848
- 本書の発行 849
- 本書の編集 850
- 本書の校閲 851
- 本書の校正 852
- 本書の印刷 853
- 本書の発行 854
- 本書の編集 855
- 本書の校閲 856
- 本書の校正 857
- 本書の印刷 858
- 本書の発行 859
- 本書の編集 860
- 本書の校閲 861
- 本書の校正 862
- 本書の印刷 863
- 本書の発行 864
- 本書の編集 865
- 本書の校閲 866
- 本書の校正 867
- 本書の印刷 868
- 本書の発行 869
- 本書の編集 870
- 本書の校閲 871
- 本書の校正 872
- 本書の印刷 873
- 本書の発行 874
- 本書の編集 875
- 本書の校閲 876
- 本書の校正 877
- 本書の印刷 878
- 本書の発行 879
- 本書の編集 880
- 本書の校閲 881
- 本書の校正 882
- 本書の印刷 883
- 本書の発行 884
- 本書の編集 885
- 本書の校閲 886
- 本書の校正 887
- 本書の印刷 888
- 本書の発行 889
- 本書の編集 890
- 本書の校閲 891
- 本書の校正 892
- 本書の印刷 893
- 本書の発行 894
- 本書の編集 895
- 本書の校閲 896
- 本書の校正 897
- 本書の印刷 898
- 本書の発行 899
- 本書の編集 900
- 本書の校閲 901
- 本書の校正 902
- 本書の印刷 903
- 本書の発行 904
- 本書の編集 905
- 本書の校閲 906
- 本書の校正 907
- 本書の印刷 908
- 本書の発行 909
- 本書の編集 910
- 本書の校閲 911
- 本書の校正 912
- 本書の印刷 913
- 本書の発行 914
- 本書の編集 915
- 本書の校閲 916
- 本書の校正 917
- 本書の印刷 918
- 本書の発行 919
- 本書の編集 920
- 本書の校閲 921
- 本書の校正 922
- 本書の印刷 923
- 本書の発行 924
- 本書の編集 925
- 本書の校閲 926
- 本書の校正 927
- 本書の印刷 928
- 本書の発行 929
- 本書の編集 930
- 本書の校閲 931
- 本書の校正 932
- 本書の印刷 933
- 本書の発行 934
- 本書の編集 935
- 本書の校閲 936
- 本書の校正 937
- 本書の印刷 938
- 本書の発行 939
- 本書の編集 940
- 本書の校閲 941
- 本書の校正 942
- 本書の印刷 943
- 本書の発行 944
- 本書の編集 945
- 本書の校閲 946
- 本書の校正 947
- 本書の印刷 948
- 本書の発行 949
- 本書の編集 950
- 本書の校閲 951
- 本書の校正 952
- 本書の印刷 953
- 本書の発行 954
- 本書の編集 955
- 本書の校閲 956
- 本書の校正 957
- 本書の印刷 958
- 本書の発行 959
- 本書の編集 960
- 本書の校閲 961
- 本書の校正 962
- 本書の印刷 963
- 本書の発行 964
- 本書の編集 965
- 本書の校閲 966
- 本書の校正 967
- 本書の印刷 968
- 本書の発行 969
- 本書の編集 970
- 本書の校閲 971
- 本書の校正 972
- 本書の印刷 973
- 本書の発行 974
- 本書の編集 975
- 本書の校閲 976
- 本書の校正 977
- 本書の印刷 978
- 本書の発行 979
- 本書の編集 980
- 本書の校閲 981
- 本書の校正 982
- 本書の印刷 983
- 本書の発行 984
- 本書の編集 985
- 本書の校閲 986
- 本書の校正 987
- 本書の印刷 988
- 本書の発行 989
- 本書の編集 990
- 本書の校閲 991
- 本書の校正 992
- 本書の印刷 993
- 本書の発行 994
- 本書の編集 995
- 本書の校閲 996
- 本書の校正 997
- 本書の印刷 998
- 本書の発行 999
- 本書の編集 1000
- 本書の校閲 1001
- 本書の校正 1002
- 本書の印刷 1003
- 本書の発行 1004
- 本書の編集 1005
- 本書の校閲 1006
- 本書の校正 1007
- 本書の印刷 1008
- 本書の発行 1009
- 本書の編集 1010
- 本書の校閲 1011
- 本書の校正 1012
- 本書の印刷 1013
- 本書の発行 1014
- 本書の編集 1015

原語歌詞の朗読

いくつかの外国語曲では、原語歌詞の朗読を視聴することができます。



コードの弾き方

コードの弾き方(ギター・キーボード)を
視聴することができます。



新しい教科書のポイント② 『高校生の音楽1』

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 「思考力・判断力・表現力等」の育成
- 「知識・技能」の習得

「主体的・対話的で深い学び」の実現



P.2・3

- ▲「音楽って何だろう?」という問いかけを出発点として、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの実現を目指します。

鑑賞：《土の歌》

- ▶どの部分に注目して学習を進めたらよいのか、話し合ったらよいのかを具体的に示し、主体的・対話的な学びを促します。

他にも……

- 教材を深く理解するための資料を適切に配置し、音楽的な深い学びを促します。
例：P.40・41《菩提樹》
- ある音楽についての理解を深めるとともに、その音楽が生まれた社会のあり方についても学び、深い学びを促します。
例：P.56・57 ガムラン《ランチャラン マニャルセウ》



P.50

P.53

「思考力・判断力・表現力等」の育成

音楽って何だろう？

- ▶「音楽って何だろう？」という問いに対する考えを
 深めるためのさまざまな視点を掲載しました。

他にも……

- 新しく習得した知識を楽曲の理解に生かし、
 理解したことを表現活動につなげます。
 例：P.16・17《野ばら》(シューベルト/ヴェルナー)
- 即興演奏しながら組み立てていく音楽に挑戦し、
 その面白さや難しさに触れ、合奏を楽しみます。
 例：P.24・25「ホローボによるリズムゲーム」



「知識・技能」の習得

鑑賞：能《高砂》

- ▶ 日本の伝統音楽の鑑賞教材では、鑑賞にも役立つ
 体験活動を取り入れ、実感を伴う学びを促します。



P.22・23



P.62・63

器楽：《Happy Birthday To You》

- ▶ 楽器の基本的な奏法を身に付けるために、
 無理なく楽しみながら取り組める楽曲を厳選しました。

資料：西洋音楽史

- ▶ 古代ギリシャから現代まで、
 西洋音楽がどのような変遷を
 遂げてきたかを学習し、
 実際の鑑賞に生きる知識を
 身に付けます。



P.128・129

他にも……

- 創作教材では、自分の思いや意図を
 出発点として、他者と意見交換をしながら
 作品をつくり、音楽的感性を育みます。
 例：P.28～31「詩、短歌、俳句をもとにして
 音楽をつくろう」

♪「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力」の育成

P.58 • 59

音楽旅行記 地球の裏側の音楽を求めて～ボリビア～

▲それぞれの音楽が、生活や社会の中でどのような意義や役割をもっているかを学び、音楽の視野を広げます。

鑑賞：オペラ《椿姫》

▶ 作品が生まれた当時の社会の価値観に触れ、音楽の文化的・歴史的背景について深く理解し、充実した鑑賞活動につなげます。

他にも……

- **社会にメッセージを投げかける楽曲の学習を通して、音楽のもつ働きについての理解を深めます。**
例：P.10・11《魔法みたいに》
- **世界各地のさまざまな音楽のあり方に触れ、「音楽とは何か」について考えを深めます。**
例：P.54・55「音楽って何だろう？ ②さまざまな音楽のあり方」

[illegible]

『MOUSA』のコンセプト

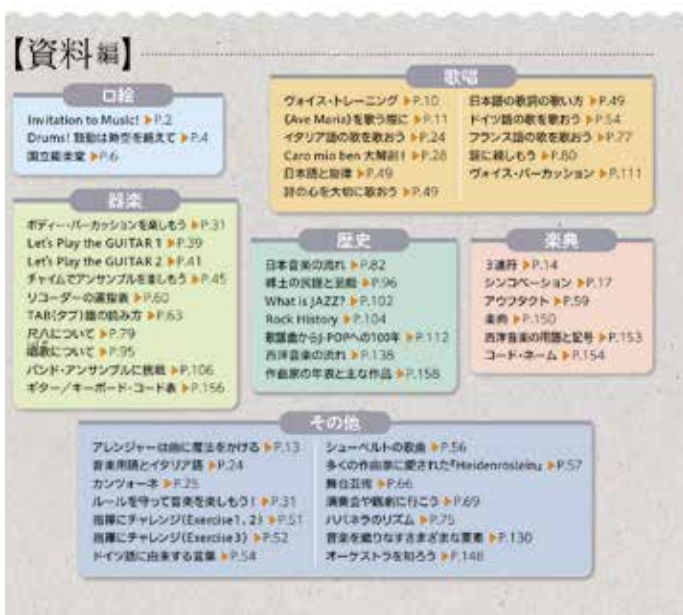
▶「卒業後も手元に残しておきたい教科書」であることを刊行以来のコンセプトにしています。
新しい『MOUSA1』では、音楽の魅力をさらに多面的に学べるようにしました。

♪ 学習に役立つコンテンツ



ジャンル別MAP

▶生徒が幅広く音楽と関わることができるよう、
また、多様な状況に対応できるよう配慮しています。





P.102・103

ピアノ・トリオ
 による
 《枯葉》の演奏

学習をサポートするQRコード

▶ QRコードを読み取り、
 実際に目や耳で確認することで
 知識を確かなものにすることが
 できます。

ギターの演奏方法を
 動画で紹介!
 ジャズの演奏を
 映像で鑑賞!



コードの押さえ方も
 動画で確認!

新しい教科書のポイント② 『MOUSA1』

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 「思考力・判断力・表現力等」の育成
- 「知識・技能」の習得

♪「主体的・対話的で深い学び」の実現

コミュニケーション力を育むバラエティー豊かな教材

▶ 個々の創造性を育むとともに、グループ活動によって協働しながら主体的に取り組むことができます。



P.30・31



強弱や音色の工夫について説明しています。



P.32・33

動画サイトで話題となった『Cups』のパフォーマンスをもとにした教材です。

♪「思考力・判断力・表現力等」の育成

〔共通事項〕を手がかりに学習を進めることができる教材

▶ 音楽の要素が曲想とどのように関わっているのかを主体的に捉えることができます。

音楽の特徴を言葉で表現

音楽の特徴を捉えよう						
① 組曲を聴き、130ページを参考に、「音楽を聴きなすきさまざまな音楽」の観点からそれぞれの曲の特徴を捉え、言葉で表そう。						
タイトル	音色	リズム	速度	旋律	強弱	構成、その他
変奏曲「カプリチオ」	弦楽器とピアノ、軽快に、	軽快な、重々しい、リズムがある。	ライオンが重々しく行進する音が、思ひ浮かぶような、重々しいリズム。	スラーとスタッカートが特徴的で、少しだけけたたけな印象を受ける。	全体的に強いが、終盤にメロディーが弱くなり、まただんだんと強くなっていく。	変奏の掛け合いが効果的、重々しい、ファンファーレやライオンのような声のような音に驚かされる。



P.131

「知識・技能」の習得

発声の基本と実践

- ▶ 基本的な発声法を身に付けるための最適な教材《Ave Maria》を扱ったこのページは、1年を通して活用することができます。

「ヴォイス・トレーニング」は、《Ave Maria》だけでなく、他の歌唱教材にも生かすことができます。

《Ave Maria》を歌う際のポイントをQ&A形式で掲載



P.10・11

器楽では丁寧な学習プロセスを提示

- ▶ 楽器や奏法の説明を充実させ、個々の音楽経験に関係なく、段階を踏んで取り組める内容になっています。今回の改訂では、コード演奏やストローク奏法を無理なく楽しめるウクレレの教材を新たに掲載しました。

実際の演奏方法を動画で確認できます。

楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜を見開きに配置



P.34・35

新しい教科書のポイント③ 『MOUSA1』

- 「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- 「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力」の育成

♪「学びに向かう力・人間性等」の涵養

グループの会話を参考に《Caro mio ben》を分析

▶「主体的・対話的で深い学び」の本質に触れることができます。

表現豊かな
演奏へつなげる
生徒どうしの会話

Point ① 旋律が3拍目から始まる。
この曲では、旋律が1, 2, 3, 4拍目は全く同じ動きで進みます。
1拍目は4拍目の動きで始まり、2拍目は3拍目の動きで始まり、3拍目は4拍目の動きで始まり、4拍目は1拍目の動きで始まります。

Point ② 初めて音が跳躍する。
初めは下から上へ2音跳躍し、3拍目の初めの音が跳躍しています。
リズムを付点音符で表わされています。
"senza di te (あなたがいなくて)"という歌詞が歌詞に載っています。

Point ③ 旋律がピアノで演奏される。
"Caro mio ben"と歌われる旋律をピアノで演奏されています。
続く部分で1音階は"predmi almen"と歌われて、1音階は"Caro mio ben"と歌われています。

Point ④ 連続して音が跳躍する。
この部分では音が大きく跳躍して、正しく歌うことが大切です。
今までは、ほぼ同じ動きで進んでいましたが、この部分では動きが変わります。

Point ⑤ 旋律の雰囲気が変わる。
この部分では、リズムが変わります。
リズムも上向きに変わります。
次の部分でリズムが変わります。
ピアノ伴奏の動きも変わります。

Point ⑥ 歌の旋律に「f」が現れる。
この部分では、"Cosa (やめてくれ)"という歌詞が歌詞に載っています。
リズムも変わります。
リズムも変わります。

P.28・29

表現方法について深く考えることができる指揮の実習

▶指揮の基本的な動きを身に付けることができます。

次のページでは、
《夏の思い出》を用いて
実践的に学びます。

P.51

1 指揮の基本的な動きを身に付けることができます。

2 指揮の基本的な動きを身に付けることができます。

3 指揮の基本的な動きを身に付けることができます。

4 指揮の基本的な動きを身に付けることができます。

図やイラストで
指揮の動きを
丁寧に説明しています。

指揮の振り方を
動画で分かりやすく
解説しています。

♪「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力」の育成

作曲家の生涯と作品から学ぶ音楽文化と歴史

- ▶ 作曲家の生きた時代背景や当時の生活などについて深く知ることができる「クローズ・アップ・マエストロ」。
 J.S.バッハと、W.A.モーツァルトを取り上げています。



音楽学習歴も
 掲載

P.142~144

卒業後も活用できる資料

- ▶ それぞれの歴史や背景を知って
 親しむことができるようになりました。

日本音楽の流れ (P.82~84)
 西洋音楽の流れ (P.138~141)
 郷土の民謡と芸能 (P.96~97)
 歌唱曲からJ-POPへの100年 (P.112~113)

歌唱曲から
 J-POPに推移していく
 100年の間の楽曲の
 制作方法に着目

- ▶ ささまざまな音楽に接する際の切り口を
 多様な観点から示しました。

Drums! 鼓動は時空を超えて (P.4・5)
 アレンジャーは曲に魔法をかける (P.13)
 舞台芸術 (P.66・67)
 演奏会や観劇に行こう (P.69)



P.112

- ▶ 表現と鑑賞とを関連付けたページを含め、これまでに紹介した資料の他にも、
 教科書の学習活動をサポートするだけでなく卒業後も活用できる資料を豊富に取りそろえました。

ルールを守って音楽を楽しもう! (P.31) オーケストラを知ろう (P.148・149)
 コード・ネーム (P.154・155) ギター／キーボード・コード表 (P.156・157) 作曲家の年表と主な作品 (P.158・159)

音楽は心と 直結する

指揮者 山田和樹

今号では、クラシック音楽の本場ヨーロッパをはじめ、日本でもオーケストラや合唱など、幅広く世界で活躍する指揮者の山田和樹さんのインタビュー記事をご紹介します。ご自身の経験を振り返りながら、コロナ禍でお考えになっていることや、若い人たちに伝えたいことなど、さまざまに語っていただきました。また、山田さんには教育芸術社の中学校用教科書、令和3年度『中学生の音楽』の「指揮をしてみよう!」のページにもご登場いただいています。

聞き手 ヴァン編集部

Kazuki Yamada

「8割の美学」

Vent(以下、V): 弊社の令和3年度『中学生の音楽』「指揮をしてみよう!」のページでは、『カルメン』前奏曲(1)、『交響曲第5番』(2・3上)、『大地讃頌』(2・3下)、それぞれ指揮のポイントを教えていただき、ありがとうございました。

山田: この4月から、全国の中学校の生徒さんたちに教科書が届くんですね。楽しみです。

V: 山田さんは国内外でご活躍ですが、若い人たちに聴いてほしい、おすすめのクラシック音楽はありますか？

山田: 音楽においては、その人自身が好きな曲、興味をもった曲を聴くのがいちばんだと思っています。映画音楽などもおす

めです。

V: 山田さんがお聴きになって、いいなと思った曲はありますか？

山田: いちばんの思い出は、ジョージアのアザラシヴィリという作曲家の作品です。高校1年生のときに、旅行で乗った飛行機の中にかかっていたのですが、「音楽ってこんなに感動するものなんだ」と身体で感じた印象的な経験でした。今ではその曲をコンサートで演奏することもあります。エルヴィス・プレスリーもすごいですね。ここ数年の間で唯一、いつでも聴けるようにしているのは、プレスリーの歌うクリスマスソングだけです。プレスリーの歌は一つの奇跡です。隙のないパーフェクトな歌声の中に、人間味があふれています。

V: プレスリーの名前は中・高の教科書で紹介しています。ど



藤原歌劇団 ビゼー『カルメン』

総監督：折江忠道 指揮：山田和樹 演出：岩田達宗 管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団 合唱：藤原歌劇団合唱部 児童合唱：東京少年少女合唱隊 舞踊：平富恵スペイン舞踊団 ©公益財団法人日本オペラ振興会 (2017年・東京文化会館)



ベートーヴェン『交響曲第5番《運命》』

指揮：山田和樹 管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団 ©平舘 平 (2019年・東京芸術劇場)

のようなところに魅力を感じたのでしょうか？

山田：プレスリーの歌うクリスマスソングを聴いたときに「8割の美学」という言葉が浮かんだのです。とかく人間は「がんばること」が美学と思いがちですが、実は8分目こそがいちばん美しいのではないかと思ったのです。もっと歌えるはずなのに、あえて声を張るよりも、ささやくように歌ったりする。だから聴いているほうはもっと聴きたいと思ってしまう。クラシック音楽は、がんばって突き詰めて練習して、緊張の中ステージに立つ世界です。けれど、プレスリーの歌に感じた「8割の美学」によって、必ずしもそうでなくてもよいのではないかなと思うようになったのです。

V：山田さんが指揮するステージを拝見すると、演奏家の方々



エルヴィス・プレスリー



マーラー『交響曲第8番《千人の交響曲》』

指揮：山田和樹 ソリスト：林正子、田崎尚美、小林沙羅（以上ソプラノ）、清水華澄、高橋華子（以上アルト）、西村悟（テノール）、小森輝彦（バリトン）、妻屋秀和（バス）
合唱：武蔵野合唱団、栗友会、東京少年少女合唱隊 管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団 写真提供：Bunkamura ©山口敦
（2017年・Bunkamuraオーチャードホール）

が全力で音楽を届けてくれるのが伝わって、とてもすてきだと感じます。

山田：指揮者としては難しいんです。自分が100%でも、オーケストラも100%になるとは限りません。逆に自分が10%でも、オーケストラが100%になるかもしれない。それに自分もオーケストラも100%の力を出したものが、そのとき最高の音楽であるとも言いきれません。それがある意味、音楽の懐の深さだと思うんですけどね。そのあたりのことをプレスリーの歌から感じました。

正解がないことこそ、音楽のよさ

V：今はコロナ禍で、鑑賞の授業を増やした学校があると聞きます。

山田：鑑賞を授業で行うのは難しそうですね。僕自身はコンサートで、お客様に具体的な特定の感想をもってほしいとは考えていませんし、もっといえば、感想はなくてもいいと思っています。聴いたけれど「なんだかよく分からない」でもいいです。人は、感じたことを伝えるために音楽を聴くわけではありませんから。僕の立場としては、純粋に音楽を楽しんで聴いてほしいだけなのですが、何某かの評価をしていかなければいけない教育現場は、それも難しいのではないかと思います。

V：山田さんは、初めての曲を聴くとき、どのようなことに注意していますか？

山田：具体的に何かに注意して聴くようなことはなく、総合的

な雰囲気を感じています。なんとなく聴いてみて、おもしろそうとか刺激的とか、音楽の全体的な雰囲気をまず感じ取ります。そこで「いいな」と思ったときに、曲自体を好きになったり、あるいはその演奏者を好きになったり、人それぞれに趣向が分かれていくのだと思います。

V：まずは雰囲気を受け止めるということですね。

山田：はい。ただ、もしもその音楽が自分に合わないと思っても、演奏家が代われば好きになるかもしれません。同じ作曲家でも他の曲は合うかもしれない。クラシック音楽は、一度だけではなく何度も聴いてみてほしいです。例えば、僕は映画が大好きですが、映画を好きになるには、数が必要でした。かなり多くの映画を観ました。最初の頃は、そのとき上映されている映画を全部観ていたんです。1週間で20本ぐらいだったかな。何がよくて何が悪くて、何が自分に向いているかも分からなかったのが、ずっと観ていくうちに、ようやく自分の好み分かるようになりました。音楽も同じで、何十回とコンサートに行ったり曲を聴いたりすると、分かるようになってくるのだと思います。

V：たくさん聴くことが必要なのですね。

山田：クラシック音楽を何十回も聴くのは大変です。ですが、音楽に限らず、何かを深く知るためには、元手と労力、時間がかかります。だけど、すぐに分からないからこそのおもしろさってありませんか？音楽もそう。一度曲を聴いただけでは作曲家の意図が分かりにくいからこそ、おもしろいと思うんです。音楽には正解がないとよくいわれますが、正解がないことこそ、音楽のよさです。音楽は人の手が加わろうが加わるまいが、その存在自

体がすばらしい。だから今の時代の僕たちがいなくなったあとにも、音楽は残り続けていくわけです。

悔いのない人生はつまらない

V: 若い方に伝えたいことはありますか？

山田: 自分の感情、喜怒哀楽を大事にしてほしいです。自分が「変だな」と思うことや、特に怒りの感情など、うやむやにしないで大切にしてもらいたいです。例えば、怒りや自暴自棄になってしまいそうな気持ちがあったとき、その感情に自分がどう対処したらいいのか、若い頃は分かりません。友達とけんかをしたり、誰かを傷つけたりしてしまうこともあるでしょう。だけど、それでもいろいろなことをやってみることが必要です。悩みもがき苦しむのも若者の特権と思い、僕が中高生と接するときには、「自分の中の危うさを大事にしてほしい」といつも伝えています。若い頃は、何でもすべし、苦勞はすべし。昔ドラマで聞いた「悔いを残すべし」という言葉も好きです。

V: 一般的には「悔いが残らないように」という言葉をよく聞きます。

山田: トータルに考えて悔いのない人生だったと思えても、それは悔いがあるからこそ感じるができるわけです。僕も悔いはたくさんあるけれど、その時々で精いっぱいがんばったから、悔いはあるけれども悔いはない。悔いがない人生なんて、つまらないと思うんです。

V: お話を伺っていると、山田さんは大変なことも前向きに受け止めて、楽しめる感覚をおもちのように感じます。特にこのコロナ禍では、ネガティブになってしまう人も少なくないと思

いますが、物事を前向きに捉えるには、どのような心掛けが必要でしょうか？

山田: 全部ひっくり返して考えるようにしています。コロナ禍においては、今の状況を非常時だと思いがちですが、ひっくり返して、これこそが本来の普通のあり方なのではないかと考えたりするのです。これまで僕たちはマスクをしないで自由に歩いていましたが、核兵器という危険なものが世界に存在する時代、何十年も普通に暮らしていたことのほうが実は異常で、マスクをしている今の状況のほうが正常なのかもしれません。コロナが終わっても、また次のウイルスがくることだって考えられます。命の危険にさらされるたびに、演奏会は中止になる。もちろん、このような状況は僕だっていやですよ。だけど僕たちには、どうしようもない中でも、どうしようもないなりにやっていくことが求められます。今、みんなが不安な状況が、自然治癒のように元に戻るとは僕は思いません。乗り切るためには、生き生きとした人の心や精神力が必要です。

V: そこに芸術、音楽は必要だと思います。

山田: そうです。音楽は大事です。音楽は人の心や希望と直結していて、人類の危機はこれまで何度もあったけれどみんなで乗り越えてきたわけです。音楽のあり方も、その時代によって変わってきました。現在では、日々発表される「感染者〇〇人」というニュースが、ある意味ウイルス的に、少しずつ人々の心を侵しているように感じます。それを跳ね返すのは難しい。そして「みんながマスクをするから自分もしよう」と深く考える前に行動をしてしまうと、物事も進みません。進むためには、発想の転換や希望を見いだす心が大事です。そのためには、私たちの心には芸術や音楽は必要なのです。

○ 山田和樹(やまだ・かずき)

第51回(2009年)ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮。以降、シュターツカペレ・ドレスデン、チェコ・フィル、フィルハーモニア管、トゥールーズ・キャピトル管、ベルリン放送響、エーテボリ響、サンクトペテルブルグ・フィルなど世界の主要オーケストラに客演を重ねている。2017年2月にはベルリン・コーミッシェ・オーパーで《魔笛》、モンテカルロ歌劇場で《サムソンとデリラ》を指揮して高い評価を得るなど、オペラでも活躍。2016/2017シーズンから、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2018/2019シーズンからバーミンガム市交響楽団の首席客演指揮者に就任。2010年から2017年までスイス・ロマンダ管弦楽団の首席客演指揮者を務めた。日本では、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、横浜シンフォニエッタの音楽監督としても活動している。東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭大賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。ベルリン在住。

公式Twitter @yamakazu_takt



音楽は大事です。
音楽は人の心や希望と直結していて、
人類の危機はこれまで何度もあったけれど
みんなで乗り越えてきたわけです。



『ヴァン』の姉妹誌『bouquet [ブーケ] No.10』では、山田和樹さんにこれまでの人生や音楽に対する思いを語っていただいたインタビュー記事をご紹介します。ぜひご覧ください。
https://www.kyogei.co.jp/data_room/bouquet/

音楽診断

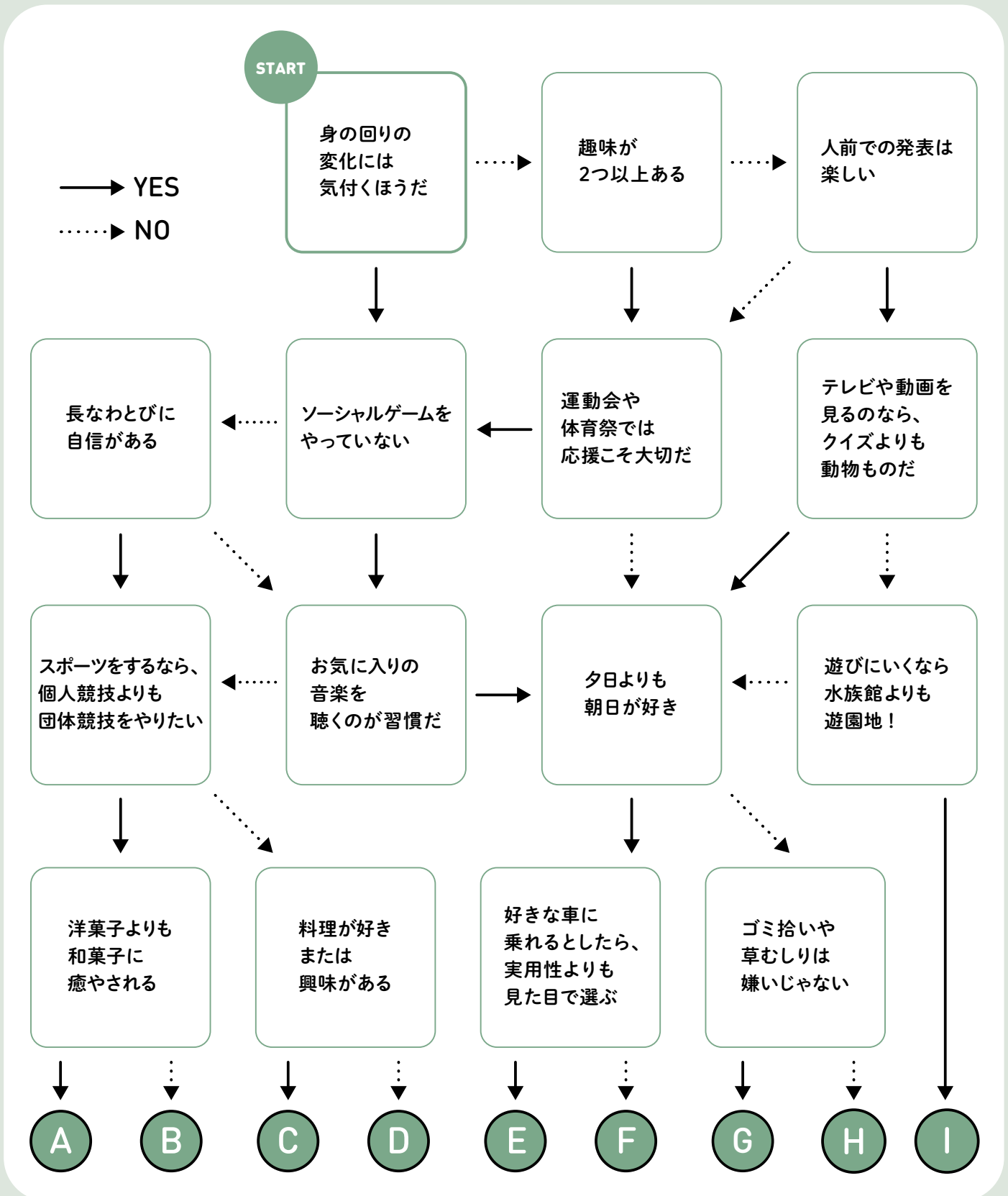
第11回 吹奏楽編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第11弾。

吹奏楽で用いられる9つの楽器から、あなたにぴったりの楽器をご紹介します。



監修・解説 = 高山直也
Text = Naoya Takayama



A さまざまな表情をもち周りとの調和を大切にする ホルン

金管楽器でいちばん難しい楽器としてギネス世界記録に認定されているホルン。ルーツは、動物の角で作った角笛であるといわれ、英語やドイツ語の「ホルン」は、楽器以外にも動物の「角」の意味があります。吹奏楽ではハーモニーを担うことが多く、マーチなどでのリズミカルな後打ちも役目の一つです。また木管楽器とも調和します。



C リズムでバンドを引っ張る！一人何役もこなす器用さも 打楽器

パーカッションとも呼ばれ、リズムの中心となり、ダイナミクスに変化を与えます。またリズムのみならず、鍵盤打楽器ではメロディーやハーモニーなどを担当。ときには元気づけ声も。さまざまな打楽器を用いて一人何役もこなさなければならぬこともしばしばです。マーチなどでは拍を感じさせ、拍を定める大切な役割を担います。



E 華やかなまとめ役 サクソフォーン

木管楽器と金管楽器のつなぎ役として、ベルギーの楽器製作者アドルフ・サクスが考案したことからサクソフォーンと呼ばれます。クラシックからジャズまで幅広く用いられ、ヴィブラートをかければ歌心あふれる表現力で聴き手を魅了。吹奏楽では華やかなソロで盛り上げ、他の楽器ともブレンドしながらサウンドをまとめます。



G 豊かな響きで幅広い役割を担う ユーフォニアム

楽器の名前は、ギリシア語の“よい響き”や“よく響く”を意味する「ユーフォノス」に由来し、柔らかく豊かな響きが特徴です。吹奏楽での役割は幅広く、メロディーやマーチなどの対旋律を担い、他の楽器とブレンドしながら全体のサウンドをまとめます。ときにはチューバとともに低音を支え、縁の下の力持的な役目も果たします。



I 精神力必須の輝かしい存在 トランペット

金管楽器の花形といえるトランペット。輝かしいファンファーレをはじめ、応援の場面では欠かせない楽器ですが、歌心あふれるメロディーを吹くこともあります。高い音が決まるとカッコイイだけにブレッシャーも大きく、メンタルの強さが求められます。一方、吹き損じたときは細かいことを気にせずサバサバとした一面も。



B 集中力を発揮しクライマックスで大活躍 トロンボーン

トロンボーンは、スライドを動かして音の高さを変えるため微妙なピッチの調整ができます。一方、正確にピッチを捉える耳が必要です。吹奏楽では中低音部を支えながらハーモニーを担い、クライマックスでは力強く吹くことも。パレードでは、前の人にスライドがぶつからないようにするため先頭を行進し目立つ場面もあります。



D 広い視野で全体を朗らかに支える チューバ

最低音を担当するチューバは、吹奏楽のサウンドを支える縁の下の力持ちとして無くてはならない楽器です。前面に出るというよりは、一歩下がることが多く、広い視野で物事全体をみているという側面も。吹奏楽では常にベースラインを担うため、オーケストラとは異なりほとんど休みのない曲もあり、忍耐強さが求められます。



F 澄んだ音色で合奏を明るく彩る フルート

フルートは、高音域を受けもつ木管楽器。優しい澄んだ音色が特徴で軽やかさも、小鳥のさえずりを連想させます。息を歌口のエッジに当てて振動させるエアリードの楽器で、空気を直接音にします。吹奏楽ではクラリネットとメロディーラインの響きをつくり、ときには装飾的な役割も。また独奏楽器としても人気があります。



H 主役も脇役もこなすサウンドの要 クラリネット

優しく温かみのある音色が特徴といえますが、速い動きも得意です。吹奏楽ではパートの人数が多く、メロディーをみんなで演奏するなど、オーケストラというヴァイオリン同様、サウンドの要となります。また2ndや3rdは、オーケストラの第2ヴァイオリンやヴィオラのように内声を担うこともあり、主役と脇役をこなします。



高山直也(作曲家、音楽評論家)

作曲家、音楽評論家。武蔵野音楽大学卒業後、幅広い創作活動を行い、ビクターなど数々のレコーディングに参加。また音楽教科書の編曲も手がける。一方『音楽の友』誌では演奏会批評を担当する他、著名演奏家のCDや演奏会の曲目解説も多数。1981年世川賞作曲コンクール第1位(現・日本音楽財団)。全日本吹奏楽コンクール審査員。

研究大会

11月

November

19日(金)

第63回 近畿音楽教育研究大会 京都大会

〈大会主題〉

感じ取ろう 音楽の魅力 見つけよう 音楽の秘密

〔問い合わせ〕

京都市立西陣中央小学校 校長 綿越貴久

〒602-8441 京都府京都市上京区大宮通今出川上ル観世町135-1

TEL 075-432-5522/FAX 075-432-5523

26日(金)

第52回 中国・四国音楽教育研究大会 高知大会

高知市文化プラザ かるぼーと 他

〈大会主題〉

かかわる つながる ひびきあう

〔問い合わせ〕

事務局

津野町立葉山中学校 校長 石川雅啓

〒785-0213 高知県高岡郡津野町白石丙155

TEL 0889-56-3116/FAX 0889-40-2302

オンライン大会／開催

11月12日(金)～12月下旬

令和3年度 第63回 関東甲信越音楽教育研究会
山梨大会(オンライン大会)

〈大会主題〉

「確かな学び 広がる音楽」

～知覚・感受をもとにした

音楽的思考力・判断力・表現力等の育成～

〔問い合わせ〕

第63回 関東甲信越音楽教育研究会山梨大会 事務局

大月市立初狩小学校 校長 梶本 宏(事務局長)

〒401-0021 山梨県大月市初狩町下初狩1144

TEL 0554-25-6303/FAX 0554-25-6361

kajimoto-uvuc@es-jhs.kai.ed.jp

11月19日(金)

第17回 東海北陸小中学校音楽教育研究大会
福井大会

第14回 福井県学校音楽教育研究大会

福井・鯖丹大会(小中学校及び高等学校)
(オンライン開催)

〈大会主題〉

求める 深める つながる 音楽の学び

〔問い合わせ〕

事務局

福井市六条小学校 校長 川崎隆夫

〒918-8133 福井県福井市上筋生田町5-16

TEL 0776-41-1010/FAX 0776-41-1549

t-kaw987@fukui-city.ed.jp

教育芸術社ホームページでは、この他の研究大会や
イベントなどの情報も掲載しています。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

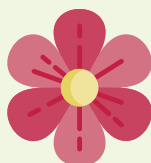
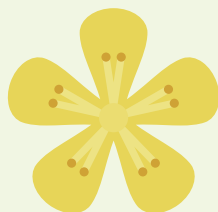


誌面開催

令和3年度 全日本音楽教育研究会
全国大会八戸・三戸大会(総合大会)
第69回東北音楽教育研究大会 八戸三戸大会
誌面開催

〈大会主題〉

ひろげよう つたえよう こたえよう



Icon made by Freepik from www.flaticon.com

— 新作合唱曲による公開講座 —

Spring Seminar

2021

コンクール自由曲向けの新曲発表会「Spring Seminar 2021」を開催いたします。

同声・女声・混声の各2曲(全6曲)を作曲者、司会者、合唱団と学びます。

●今回は収録による動画配信の形式で開催いたします。

●閉会行事後の「Nコン課題曲ワンポイントレクチャー」は実施しません。

●詳細や最新情報は弊社ホームページ等でご確認ください。

●申し込み: 2021年5月10日(月)～

●動画配信: 2021年5月12日(水)～[期間限定]

●司 会: 藤原規生

作曲家: [同声] アベタカヒロ、大熊崇子

[女声] 土田豊貴、横山潤子

[混声] 三宅悠太、木下牧子

合唱団: 八千代少年少女合唱団

(指揮: 長岡亜里奈)

女声合唱団 ゆめの缶詰

(指揮: 相澤直人)

ユース クワイア アルデbaran

Youth Choir Aldebaran

(指揮: 佐藤洋人)

●お問い合わせ:

株式会社教育芸術社

スプリングセミナー実行委員会

TEL 03-3957-1168

FAX 03-3957-1740

<https://www.kyogei.co.jp/>

内容は予告なしに変更となる場合がございます。

最新情報は、スプリングセミナーの

Facebookでも発信いたします。

<https://fb.me/kgspringseminar/>



編集後記

ふと、子どもの頃に真新しい教科書を受け取ったときのことを思い出しました。あんなイラストの表紙だったなあ、と懐かしい記憶がよみがえります。

今号の巻頭インタビューでは、令和4年度から使用される高等学校用教科書の表紙を手掛けてくださった、人気イラストレーターの中村佑介さんと、SNSでも話題のミニチュア写真家、田中達也さんにご登場いただきました。

教科書を手取る高校生の気持ちを想像しながら、細部にまでこだわって完成した表紙。その中に込められた思い、そして音楽を学ぶ生徒たちへのメッセージもお届けします。

また、今回はドラマーの石若駿さん作曲によるボディー・パークッションの新曲をご紹介します。模範演奏の動画もご覧いただき、ぜひ授業でもご活用ください。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション

スズキカノリ

写真撮影

島崎信一(STUDIO S+PLUS)

島崎智成

写真提供

飛鳥新社

Getty イメージズ

藤原道山

協力

COTTON CANDY

日本フィルハーモニー交響楽団

イラストレーション

こばやしみさこ

表紙デザイン・本文組版

STORK

音楽教育 ヴァン

発行者 株式会社 教育芸術社(代表者 市川かおり)

〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14

TEL. 03-3957-1175(代)

FAX. 03-3957-1174

<https://www.kyogei.co.jp/>

©2021 by KYOGEI Music Publishers. ©-21

本書を無断で複写・複製することは著作権法で禁じられております。

* ヴァン=“vent”はフランス語で「風」。
新しい音楽教育の地平を切り開いていく
願いを込めています。



Recommend

オリジナル合唱ピース

- クラス合唱や全校集会、コンクール自由曲向けの新曲。
【同声編107】すてきな友よ(アベタカヒロ 作曲)
【同声編108】いる(大熊崇子 作曲)
【女声編60】夕暮—女声合唱とピアノのための—(土田豊貴 作曲)
【女声編61】ふゆはたまもの(横山潤子 作曲)
【混声編108】ひとめぐり—混声合唱とピアノのための—(三宅悠太 作曲)
【混声編109】冬と銀河ステーション 混声合唱とピアノのための(木下牧子 作曲)
- 各定価660円(本体600円+税10%)／B5判 ※2021年5月発売予定

New Song ライブラリー【混声編③】 クラス合唱新曲集 大地のように

- 授業はもちろん、校内合唱コンクールや卒業式など行事でのレパートリーが広がる魅力的な16曲。作者(編曲者)によるメッセージを全曲掲載。
- 収録曲: 僕の道しるべ/心のキャッチボール/大地のように/君がつかももの/空をつないで/花がほほえむ/このみち/あじさいの花/蝶が舞い・花が咲く/ハートのアンテナ/栄光の架橋/海より深い愛/どこかじゃなくて/おおいなる川 ~はるかな旅へ~/さよならの前に/いまここ
- 定価1,540円(本体1,400円+税10%)／B5判／104ページ
- ISBN978-4-87788-951-7



準拠CD(別売り)

- 全曲の模範演奏を収録。
- 定価3,080円(本体2,800円+税10%)／1枚
- GES-15598

児童が最後まで聴きたくなる！ 鑑賞授業の事例集

栗飯原喜男 著

- 児童が興味をもって音楽を聴き、最後は全体を見通して聴けるようになる、著者が長年の経験から得たノウハウが満載。各学年の鑑賞教材に対応したワークシート例なども掲載されています。
- 聴く観点を明確にする指導手順と効果的な声掛けを事例として示しています。
- 定価1,100円(本体1,000円+税10%)／A4判／32ページ
- ISBN978-4-87788-841-1



山崎朋子 Original Songs ソロヴァージョン 幸せ

- 山崎朋子先生の人気の合唱曲から6曲をソロヴァージョンにアレンジ。独唱だけではなく、魅力あるメロディーは楽器で演奏しても楽しめます(一部、調性とピアノ伴奏は合唱曲と異なります)。
- 収録曲: 大切なもの/種/つながる空/幸せ/空は今/夕陽
- 演奏音源は音楽配信サービスにてダウンロードでご購入いただけます。
- 定価1,650円(本体1,500円+税10%)／A4判／32ページ
- ISBN978-4-87788-967-8



山崎先生と教え子の音楽家たちによるセッションを
教育芸術社YouTubeチャンネルに用意しました。
ぜひご覧ください！